

■ 地区別の状況（第2期計画への論点整理）

※この表はアンケート調査に基づく結果であり、傾向を表すものです。統計調査等の結果とは異なりますので参考としてご覧ください。

	市全体	東金第1地区	東金第2地区	田間地区	嶺南地区	城西地区	公平地区	丘山地区	大和地区	正気地区	豊成地区	福岡地区	源地区
ひとり暮らし世帯	20.1%	14.9%	19.0%	19.1%	19.6%	28.2%	25.0%	35.0%	9.4%	18.0%	16.7%	26.3%	26.9%
世帯員に65歳以上の方がいる	33.1%	30.7%	33.3%	27.7%	37.3%	25.6%	47.9%	22.5%	35.8%	37.1%	35.9%	28.9%	34.6%
区会・自治会に加入している	73.6%	80.2%	76.2%	55.3%	74.5%	69.2%	85.4%	82.5%	83.0%	77.5%	73.1%	76.3%	73.1%

【課題】

- ・「ひとり暮らし世帯」が2割、高齢者のいる世帯が3割を占めており、高齢者の独居、若いひとり世帯や高齢者が増えることでの地域社会の需要の変化（コミュニティの希薄化など）を従来以上に適切に捉え、「地域」の中から孤立することを予防（セーフティ機能）する必要があります。
- ・区会・自治会の自治機能は地域差があるものの健在ですが、その役割は「地域の取りまとめ」に重点があり、「地域福祉の推進機能」には足りていないため、積極的な地域福祉の推進組織の立ち上げ等を検討していく必要があります。

【第2期計画への反映】

- ・第1期計画は、福祉事業の取りまとめや周知啓発の役割を果たしてきましたが、第2期計画ではより実践的な計画とします。
- ・施策の在り方は、当然ながら地区別の人口規模や世帯状況を勘案しながら、地域に応じて事業展開する必要がありますが、第2期計画においては、地域の実態に応じた「地域主体の対応」を主とし、東金市及び市社協が「そのために必要な適切な支援」を図ることとします。（福祉施策の方針を示すための計画から、より地域福祉活動を推進する計画へと、比重を移します）
- ・区会・自治会の機能が「地域福祉の推進」とは異なることから、12地区で構成されるの地区社会福祉協議会を「地域主体の組織」として位置づけ、地域福祉の推進組織としてより明確に位置づけます。（地区別計画の策定します）

不安の相談相手 〔家族、親戚、きょうだい〕	59.4%	65.3%	66.7%	60.6%	64.7%	61.5%	58.3%	55.0%	45.3%	69.7%	57.7%	55.3%	38.5%
不安の相談相手 〔友人〕	30.3%	27.7%	28.6%	34.0%	29.4%	28.2%	29.2%	17.5%	34.0%	33.7%	32.1%	39.5%	23.1%
情報の入手先 〔広報とうがね〕	59.0%	67.3%	61.9%	52.1%	45.1%	46.2%	64.6%	60.0%	58.5%	60.7%	67.9%	65.8%	57.7%
知っている市社協の活動 〔広報紙発行〕	39.1%	37.6%	38.1%	36.2%	37.3%	43.6%	37.5%	27.5%	35.8%	43.8%	52.6%	31.6%	46.2%

【課題】

- ・世帯人員の減少やコミュニティの希薄化が進む一方で、相談先としてはいわゆる「身内」や「コミュニティ」の役割が大きいことから、相談できない・不安を抱えたままの市民が多いことが想定されます。そのため、生活不安の潜在化が懸念され、市としても今後、市民・地域ニーズの把握がより困難となっていく可能性が見込まれます。
- ・加えて、情報の取得については広報紙の役割が高いことから、市民の情報収集は比較的受動的になっています。特に居住するコミュニティ情報の取得機会はさらに少ないことが想像され、情報発信の在り方を検討するとともに、そもそもの情報元である「地域」の中に、はじめから市民を組み込んでいく仕組み作りが必要となります。

【第2期計画への反映】

- ・福祉分野におけるそれぞれの情報ネットワークを整理（一元管理を見込むものではない）し、情報収集及び提供体制の在り方を本計画で示します。（第1期計画では重点プロジェクトだったものを内容を再構成し、再検討の上、踏襲します）
- ・地区社会福祉協議会を核とする「地域主体の組織」において、活動の推進体制を構築し、PDCAに基づく主体的な活動に取り組んでいただきます。これにより、地域課題の吸い上げ（C=チェック）を行い、潜在的な地域ニーズの確保を計画的に図ります。（地区別計画において地区別のPDCA体制の計画化を図ります）
- ・これによって吸い上げた内容は、第3期計画改定時の計画評価及び地域課題抽出のための基礎資料に位置づけることができます。

■ 地区別の取り組み内容案（参考）

	東金第1地区	東金第2地区	田間地区	嶺南地区	城西地区	公平地区
目標A 地域人材の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> 各地区役員と民生委員の合同会議を行う リーダー育成の勉強会を開く 班会議等を充実させる サークル活動や活動メニューを拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 共助の意識を高める 子供と大人の行事を一緒に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体行事を通じての若者の勧誘や女性の参加促進 各団体を通じて人材交流 新旧住民の交流の場を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア協力者が足りない時だけに加わってもらうグループを登録する 区の協議員に新住民を入れていく 	<ul style="list-style-type: none"> 新住民へ常会の内容を説明するパンフレットを作成 ポスティングや戸別訪問をする 地区の各役員や若者の名簿を作成 広報活動をする 	<ul style="list-style-type: none"> 相互理解やきっかけ作り 多くの方が参加できるイベントを企画 地域でボランティア活動を行っていく
目標B 世代・地域を越えた交流機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 各団体間の人員交流を拡大 まちづくり協議会を活用した活動 活動の場づくり 行事や地域活動の広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 70歳以上の方を長寿会の会員にする 高齢者もラジオ体操に参加できるようにする 地域団体の情報を回覧する 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の広報活動を徹底 親子で参加できる行事検討 活動のポイント制の検討 地域的なサロンの検討 行事の早期連絡や開催時の声かけ 	<ul style="list-style-type: none"> 年に数回でも集まる機会を設ける 多種の団体との交流の場を設置 子供会・敬老会等が合同イベントを立案 秋祭りを開催する 	<ul style="list-style-type: none"> イベント等の計画を行う 地区の歴史を広報に載せる 回覧板の字を大きくしてもらう 公民館や集会所を開放する 	<ul style="list-style-type: none"> 長寿会と子供会とで夏休みにラジオ体操や昔の遊び等を合同開催 文化・スポーツクラブを中心とした長寿会活動 運動会等の行事を継続、発展
目標C 地域福祉ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりの活動参加を促すや参加したくなるような行事に勧誘してネットワークを作っていく 声かけ・訪問活動・美化活動等を通して、地域福祉の実情を知る、地域活性活動を拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> 独居老人のデータを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域内の連絡網を構築 支援を必要とする人とお手伝いできる人を取りまとめる 子供会と敬老会の交流を行う 情報を共有化できる特別なネットワークの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 地区防災体制を構築する 要支援者を把握する 地区社協の役員メンバーで定期的に話し合いをする 	<ul style="list-style-type: none"> 区の回覧物に各種行事の年間予定を載せる 城西三地区の防災連絡協議会を作る 保育所・老人施設でお手伝いをする 	<ul style="list-style-type: none"> 防災会の立ち上げ 区長を中心としたネットワークを構築 高齢者世帯には近所から声かけ 生きがいとなる場をつくっていく 地域で見守れる組織をつくる

	丘山地区	大和地区	正気地区	豊成地区	福岡地区	源地区
目標A 地域人材の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> 団体を越えた交流や運動 役員以外でも参加できる区会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や講演会に参加してもらう 会と会員の連絡を密にする コーディネーターの育成 役員選考基準の緩和 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な広報活動 PTAと各種団体との交流の機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や各種団体での研修 人材マップを作成 福祉委員と民生委員の間で意見交換をして共同の活動内容 	<ul style="list-style-type: none"> 休みの日に活動する 広報誌・機関紙を作成・配布 小学校の運動会に参加して交流を深める 各団体間の交流と意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・小学校との地域ぐるみの交流 公民館でのサークル活動 年に4回ほどの交流の機会を計画・実行していく
目標B 世代・地域を越えた交流機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 公民館等を通じてサロン活動を充実 子ども会や地区社協と協力して世代間交流の機会を企画 各地域のイベント等を支援し合う 公民館を開放する 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設の訪問や家庭訪問で、積極的に交流を広げていく 地域内の広報を強化する 老若男女を問わず挨拶をする運動 学校行事の中でボランティア体験 大和祭等の個人・団体が参加できる行事を拡充 1回限りの参加しやすいボランティアの機会 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目標を通して団体同士の交流を深めていく 公民館活動を活発化する 学校との協力連携を拡大 地元企業の見学会を実施 地域の子ども達に積極的な挨拶・声かけを実施 SNSを活用して情報を周知していく 	<ul style="list-style-type: none"> すこやか親睦会を拡大 公民館活動の活用、区内で懇話会 餅つき大会への協力 福祉教育現場への参加 地区民へのアンケートを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ネットに多くの会員が参加できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館を利用した活動 夏祭りへ地区外の子どもも参加できるようにする 各団体間の交流会
目標C 地域福祉ネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 他団体と積極的に意見交換を図る 地域ミーティングの開催 他地区の行事を知ることのできるネットワークを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して計画的に行事を行う 個人情報の共有 定期的な会合や懇話会等を実施 城西大学の学生との交流 	<ul style="list-style-type: none"> 長寿会を活発化させる 「子ども110番の家」のような活動を続けていく 	<ul style="list-style-type: none"> 組織間の繋がりを持つようにする 福祉委員・民生委員の活動内容を浸透 コーディネーターを育成し任命する 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な福祉活動や各種行事 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞・郵便の業者が異常を感じた時に連絡できるようにする 全年齢層の参画 地区の広報誌を作る